

---

# タイトル？ないよね！

正也

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

タイトル？ないよね！

### 【NZコード】

N94410

### 【作者名】

正也

### 【あらすじ】

評価や感想よろしくお願ひします

肌寒さも本格的に寒いと感じ始めた

太陽は昇つてこないので

欠伸は出てしまつ

震えながら

いよいよ冬が

冬が僕らを覆いだした

季節、じてに書く日々の詩が

さながら哀愁を漂わせていた秋の詩

それは冬への序章に過ぎなかつたと今更ながら思ひます

その時の気持ちに今を重ねること自体、どうかと思ひ

次から次へと

振り返つたら

キリがないじゃない

いつも思つてもさ

気付いてもさ

繰り返してしまつ

忘れたのか

無意識か

いつも思つて気付く

そこまでいくと

もう無意識なんだな

本能といふか

よく分からぬけど

人つて面白いよね

面白い

こうして日々

詩かポエムかただの日記か

捉え方が分からぬものを

いくつも書いて

自己満足してゐる

自分の気持ちの叫びや

一田のちゅうと感じたこと

それらが詩になる

風景から切り取ることばかりしてると自分で矛盾したり

視界が詩界だと思つたり

思い詰めると疲れちゃうから

田を開じて

その内黙ってしまう

僕の生活のサイクルはこんな感じです

最初の冬のぐだり、どつか行っちゃつたけど

それはまあ正也だからちゅうがなによねとか思つてくれると助かります

何が言いたいのかな

自問自答して

またなんか詩が生まれそう

空を見て

雲を見て

星を見て

白い吐息が僕を包み込む

ホットココロ片手に

詩をかいた

みなさんはどう風に詩を書いてるのかな?

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9441o/>

---

タイトル？ないよね！

2010年11月16日02時26分発行